

生化学検査

検査項目名		正式名称	基準範囲	単位	説明
肝臓・胆管	TP	総蛋白	6.6～8.1	g/dL	総蛋白は、アルブミンとグロブリンに大きく分けられ、その比率(A/G比)をみることで、全身の健康状態の参考にします。
	ALB	アルブミン	4.1～5.1	g/dL	
	A/G比	アルブミン/グロブリン比	1.32～2.23		
	T-Bil	総ビリルビン	0.4～1.5	mg/dL	肝臓の機能、特に黄疸の有無やその種類がわかります。
	D-Bil	直接ビリルビン	0.0～0.3	mg/dL	
	TTT	チモール混濁試験	0.0～4.0	kunkel	肝臓で作られる蛋白質の量を調べる検査。肝疾患の診断に用いられます。
	ZTT	クンケル混濁試験	2.0～12.0	kunkel	
	AST(GOT)	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ	13～30	U/L	肝臓や心臓、骨格筋に多く含まれる酵素。これらの臓器が障害をうけると上昇します。
	ALT(GPT)	アラニンアミノトランスフェラーゼ	男:10～42 女: 7～23	U/L	
	ALP	アルカリ性ホスファターゼ	106～322	U/L	肝臓や胆道、骨などに多く含まれ、これらの臓器が障害をうけると上昇します。また、成長期の子供や妊婦でも高値になります。
心臓	γ-GT	γ-グルタミルトランスフェラーゼ	男:13～64 女: 9～32	U/L	肝臓や胆道で胆汁うっ滞があると上昇します。また、過度の飲酒で高値になる場合があります。
	LD(LDH)	乳酸脱水素酵素	124～222	U/L	肝臓や心臓、肺、骨格筋など多くの臓器に含まれており、特に肝機能障害、心筋梗塞、貧血などで上昇します。
	ChE	コリンエステラーゼ	男:240～486 女:201～421	U/L	肝臓で作られる酵素で、肝機能障害があると低下します。
	CK	クレアチンキナーゼ	男:59～248 女:41～153	U/L	骨格筋や心臓、脳に含まれており、特に心筋梗塞や筋肉の障害で上昇します。また、運動後でも高値になります。
	BNP	ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド	20.0以下	pg/mL	心臓の働きを反映する検査。心筋梗塞や心不全の診断・治療経過の判定に用いられます。
	NT-ProBNP	ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント	125以下	pg/mL	
	TG	中性脂肪	男:40～234 女:30～117	mg/dL	食後に増加し、エネルギー源として蓄えられます。高脂血症で高値になります。
	T-Cho	総コレステロール	142～248	mg/dL	肝臓でのコレステロール合成や栄養状態を反映します。高脂血症で高値になります。
	HDL-Cho	HDL-コレステロール	男:38～ 90 女:48～103	mg/dL	善玉コレステロールと呼ばれ、血管壁に付着したLDL-コレステロールを取り除き、動脈硬化を防ぐ働きがあります。
	LDL-Cho	LDL-コレステロール	65～163	mg/dL	悪玉コレステロールと呼ばれ、高値では動脈硬化の原因となります。
脂質	GLU	グルコース(血糖)	73～109	mg/dL	糖尿病の診断に用いられます。また、食後の検査では高値になります。
	HbA1c/NGSP	ヘモグロビンA1c/欧米の測定法の値	4.9～6.0	%	1～2ヶ月前の血糖の状態を反映します。
	IRI	インスリン	0.0～18.7	μU/mL	食後に膵臓から分泌されるホルモン。血糖を下げる作用があります。
	C-PEP	C-ペプチド	0.80～2.50	ng/mL	膵臓からインスリンと同じ割合で分泌されるので、間接的にインスリンの値を知ることができます。
	GA	グリコアルブミン	11.0～16.0	%	2～3週間前の血糖の状態がわかります。
糖尿病	UN	尿素窒素	8.0～20.0	mg/dL	腎臓から排泄される老廃物。腎機能に障害があると上昇します。
	CRE	クレアチニン	男:0.65～1.07 女:0.46～0.79	mg/dL	
痛風	UA	尿酸	男:3.7～7.8 女:2.6～5.5	mg/dL	高値では関節や臓器に沈着して痛風の原因となります。